アクアレスキューが好評

清水合金製作所 菊陽町の応急浄水処理で

熊本地震の発生に伴う地下水の濁りに対し、小型浄水装置などを保有する企業は4月14日の発災以降、水道事業体の要望を受けて精力的な支援活動を展開してきた。このうち、熊本県菊陽町では清水合金製作所の『アクアレスキュー』が貴重な生活用水の供給に活躍した。

同町には元々浄水施設はなく、取水した地下水に次亜塩素酸ナトリウムを注入して配水していたが、4月14日に発生した前震以降、原水濁度が最大7まで上昇。水道水が飲用不適合となったことから、清水合金製作所は菊陽町の支援要請を受けてアクアレスキューを設置し、給水を開始した。初動対応の速さや機器のメンテナンス性などが高く評価されている。

菊陽町は昨年3月末、災害時には防災拠点施設として機能する『光の森町民センター』を整備し、施設内には40立方㍍の耐震性貯水槽および水圧作動式の緊急遮断弁を設置した。4月14日の前震で原水濁度が上昇したものの、上流側で断水はほぼ発生せず、遮断弁は作動しなかった。16日未明の本震では断水による水圧変動を感知して作動したが、貯水槽内には既に濁水が流入していたため、飲用不適合となっていた。その後、23日の水質検査でクリアしている。

一方、清水合金製作所は4月15日に本社（滋賀県彦根市）および九州営業所で緊急支援に向けた情報収集・連絡体制を整えた。18日には菊陽町役場の要請を受けて支援チームを結成。資機材を積み、同日中に出発した。翌19日にはセンターの駐車場にアクアレスキュー1基、給水用タンク、給水栓を設置して運転調整を行い、水質試験を経て20日に供用を開始した。

設置後は役場担当者が日常点検を行う程度で「維持管理の手間がかからず、安定的に24時間給水が可能となり助かっている」と高く評価。昼間は地元の中学生がボランティアで給水活動をサポートしていた。

今年2月に町民センターで開催された総合防災訓練では、清水合金製作所の社員も参加するなど、日頃からフェイス・トゥ・フェイスの関係を大切にしてきた。支援チームの責任者を務めた田中聡・同社環境事業部水処理事業課課長補佐は「支援要請を受けて昼夜を問わず活動したが、給水に来られた方々の笑顔を見ると疲れが吹き飛びました」と振り返る。服部誠也・光の森町民センター所長は「対応が非常に迅速で、すぐに駆けつけてくれた。機器のセッティングも素早く安心できた」と話している。

なお、アクアレスキューは原水濁度が安定したことを受けて6月6日に撤去する予定。

初動対応の速さや機器の扱い易さなどが高く評価

水道産業新聞（2016年6月6日付・第5082号）